

【古典】

和歌の修辞技法の理解

掛詞

～ClassPad.net の各種ふせん・授業支援機能を活用する～

和歌における掛詞の発見と意味理解を目指す授業

和歌の修辞技法の一つである掛詞の役割・用法・見つけ方を理解する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：生徒に掛詞の役割・用法を指導し、自らで和歌の中から掛け言葉が使われている部分を見つけ、二つの意味を反映させた現代語訳を作る力を身につけさせる。

生徒向けの目標：和歌の修辞に対する知識を深め、掛詞を見つけ、意味を解釈していくための力を身につける。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・ **板書時間削減**：授業内で扱う多くの和歌をふせん上で示すため、教員・生徒どちらも板書に時間を取られない。
- ・ **学習プロセスの把握**：授業支援機能の提出管理で生徒の学習プロセスの把握ができる。
- ・ **個別最適学習促進**：授業支援機能を用いて最適な現代語訳の表現を検討する過程で、多くのフレーズを実用できるようにする意義を見出させ、テキストの例文の定着を図る。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

風吹けば、つづ白波、龜田山
夜半には、君が、ひこへ、歸つらむ
人不知す、（三つ和歌集）
つづのやうな、
歸るゝとて、歸へないのだらうか
序詞はあとの部分の
何にかかるのか？
あしびきの、山鳥の尾の、しだり尾の
なすがなを、ひかりかも、寝む
人不知（三つ和歌集）
かきこゝろ、あかこゝろ、寝むと寝るのだらうか
長いのはどっち？夜？
それとも山鳥の尾？

例歌の提示

1. 掛詞を使用した和歌（デジタルノートでは、『古今和歌集』に収録された読み人知らずの和歌と柿本人麻呂の和歌を使用）と不完全な現代語訳等を提示する。
2. 生徒に、それぞれの和歌の掛詞の理解に関連する質問を投げかける。

導入の和歌を載せたテキストふせんとヒントになるファイルふせんを生徒に提示する。

step2

掛詞(かけことば)
同音異義語(同じ音の言葉)に
二つの意味を重ねる表現技法。
一語で情景と感情を同時に表し、
和歌に奥行きと余韻をもたらす。

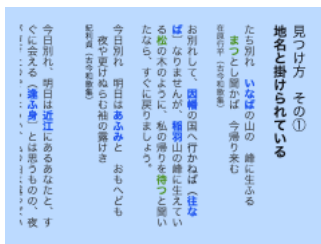
【授業の目標】
掛詞を発見し、解釈できるように
なること

修辞技法の解説・目標の提示

1. step1 で紹介した和歌を示しながら、掛詞の役割と用法を解説する。
2. 本時の目標が「掛詞を発見し、解釈できるようにすること」であると伝える。

役割と用法、授業の目標をまとめたふせんを生徒に共有する。

step3



掛詞探しと、掛けられている 言葉の意味の考察

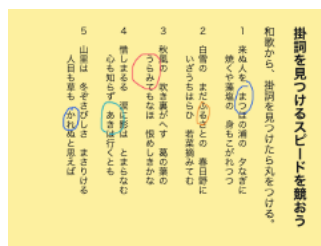
1. 教員が掛詞の発見法と例歌を順番に示す。
2. 生徒は各々で辞書を引いて意味を書き込む。
3. 全体で答え合わせをする。

代表的な発見法をこの手順を繰り返して説明する。

※枕詞・序詞・旧国名などの知識はある程度持っているという想定で授業を進めるが、定着が不十分の生徒には適宜、教科書や便覧の該当ページなどを示し、授業に参加できるようにする。

見つけ方と例歌が書かれたテキストふせんを生徒に送信する。生徒は Ex-Word 機能でわからない古語を検索しながら、教員に共有されたふせんに情報を書き込み、教員に提出する。

step4

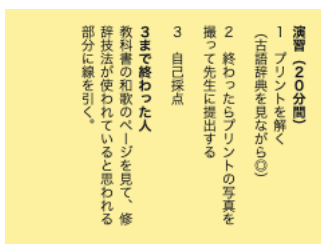


掛詞を見つける速さを競う ゲーム実戦

グループ内で最も早く掛詞を発見できた人が勝ちのゲームをし、素早く掛詞を発見するための練習をさせる。

ふせんの同時編集機能を有効にして、共有したテキストふせんにそれぞれで印を書き込ませ、スピードで競わせる。

step5



演習

1. 掛詞の発見と理解を定着するための課題に、辞書を用いて必要な語彙を検索しながら、取り組む。

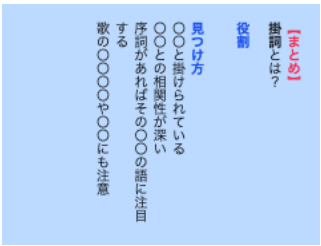
和歌を見て掛詞を発見する問題、掛詞が使われた和歌と、穴あきの現代語訳を提示し、意味を推測する問題、穴あきの和歌に現代語からふさわしい言葉を当てはめる問題など様々な問題を用意する。

2. 教員に提出し、丸付けをする。

3. 終わった生徒は教科書の和歌のページから、既習想定と掛詞が使われている和歌を探し、それぞれに印をつける。

演習中に不明点があれば、Ex-word 機能の古語辞典を使うように指示する。カメラふせんで解き終わったものを撮影し、教員に送信させる。

step6

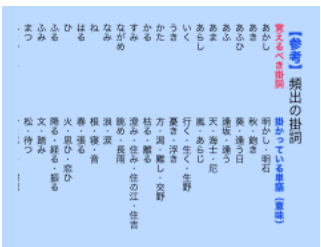


まとめ・宿題の提示

1. 教員は授業のまとめとして、掛詞の役割と用法、見つけ方を再確認する。
2. 宿題として、掛詞を出題した入試問題や授業で扱ったのと同様の形式のプリントを配布し、掛詞の発見と意味理解の定着をはかる。

まとめと宿題をテキストふせんで
提示する。

step7



参考・発展

本時の学習内容をさらに深めるため、慣用的に使われることが多く頻出の掛詞をまとめた資料を配布し、各自で確認させる。

補足説明用のファイルふせんまたはテキストふせんを作成し、授業終了時まで生徒に配信する。